

リリースノート (10.5.6.1)  
2024 年 8 月

© 著作権 Informatica LLC 2023, 2024

はじめに .....	2
インストール.....	2
サービスパックを適用する前に.....	2
アップグレードパスの確認.....	2
サービスパックファイルのダウンロード.....	2
Input.properties ファイルの更新.....	3
サービスパックのインストール.....	4
サービスパックのロールバック.....	5
10.5.6.1 で修正された問題 .....	5
Data Engineering Integration 修正された問題 (10.5.6.1) .....	5
Data Engineering Quality 修正された問題 (10.5.6.1) .....	6
Data Privacy Management 修正された問題 (10.5.6.1) .....	6
Enterprise Data Catalog の修正された問題 (10.5.6.1) .....	6
Informatica Analyst の修正された問題 (10.5.6.1) .....	9
オンプレミス接続の修正された問題 (10.5.6.1) .....	9
PowerCenter の修正された問題 (10.5.6.1) .....	9
プロファイリングおよびスコアカードの修正された問題 (10.5.6.1) .....	10
Test Data Management 修正された問題 (10.5.6.1) .....	10
サードパーティの修正 (10.5.6.1) .....	11
10.5.6.1 の既知の問題 .....	11
Enterprise Data Catalog の既知の問題 (10.5.6.1) .....	11
サードパーティ製品に関する既知の制限事項(10.5.6.1).....	12
累積的な既知の制限事項 .....	12
Data Engineering Integration の既知の制限事項 (累積) .....	12
Data Engineering Streaming の既知の制限事項 (累積) .....	13
Enterprise Data Catalog の既知の制限事項 (累積) .....	13
オンプレミス接続の既知の制限事項 (累積) .....	14
インストーラの既知の制限事項 (累積) .....	15
サードパーティ製品に関する既知の制限事項 (累積) .....	15
Informatica グローバルカスタマサポート.....	15

## はじめに

Informatica 10.5.6.1 は、バージョン 10.5.6 に適用できるサービスパックです。Informatica 10.5.6.1 サービスパックには、複数の緊急バグ修正、制限付き機能、既知の問題、およびバグ修正に関する情報が含まれています。

サービスパックは、PowerCenter、Informatica Data Quality、Data Engineering 製品、Data Catalog 製品、Data Privacy Management、および Test Data Management 製品をサポートします。

AIX、Linux、および Windows で利用可能で、[Informatica Network](#) からダウンロードできます。

**注:** 更新された機能がガイドに含まれていない場合でも、製品ドキュメントはメジャーリリースごとに更新されます。更新された機能がガイドに含まれている場合にのみ、サービスパックと HotFix の製品ドキュメントが更新されます。サービスパックまたは HotFix のガイドが見つからない場合は、以前のバージョンを参照してください。

## インストール

このセクションでは、バージョン 10.5.6.1 のインストールについて説明します。

## サービスパックを適用する前に

サービスパックを適用する前に、次のタスクを完了してください。

### アップグレードパスの確認

バージョン 10.5.6.1 は、バージョン 10.5.6 に適用できるサービスパックです。Informatica バージョン 10.5.6 にアップグレードするためにサポートされているアップグレードパスについては、「[10.5.6 Upgrade Paths](#)」を参照してください。

### サービスパックファイルのダウンロード

Informatica は、サービスパックを .tar および .zip 形式で提供しています。1 つ以上のインストーラパッケージをダウンロードして、サービスパックをインストールまたはロールバックします。サービスパックをダウンロードした後に、ファイルのコンテンツを展開します。AIX、Linux、および Windows インストール用のサービスパックが用意されています。このサービスパックは、Informatica Developer および PowerCenter クライアントの Windows インストールでも使用できます。

サービスパックには次のファイルが含まれています。

Input.properties

Informatica がインストールされるディレクトリを指定したファイル。サービスパックはこのディレクトリにインストールされます。このディレクトリパスでファイルを更新します。また、このファイルには、サービスパックをアンインストールする場合に設定できるロールバックプロパティが含まれています。

install.bat

Windows マシン上の Informatica クライアント用に指定したディレクトリにサービスパックをインストールします。このファイルは、Windows インストーラに含まれています。

install.sh

Linux または AIX マシン上の指定したディレクトリにサービスパックをインストールします。このファイルは、Linux インストーラまたは AIX インストーラに含まれています。

サービスパックを適用するには、サービスパックインストーラ、Informatica クライアントインストーラ、およびコマンドラインユーティリティパッケージをダウンロードします。

**サービスパックインストーラ用の次のパッケージをダウンロードします。**

- informatica\_10561\_server\_aix64.tar  
AIX インストール用のアップデートが含まれます。
- informatica\_10561\_server\_linux-x64.tar  
Redhat Enterprise Linux、Ubuntu、SUSE 12、SUSE 15、および Amazon Linux 2 インストールのアップデートが含まれます。
- informatica\_10561\_server\_winem-64t.zip  
Windows インストール用のアップデートが含まれます。

**Informatica クライアントの次のパッケージをダウンロードします。**

- informatica\_10561\_client\_winem-64t.zip  
PowerCenter および Developer ツールインストール用のアップデートが含まれます。

**コマンドラインユーティリティ用の次のパッケージをダウンロードします。**

- informatica\_10561\_cmd\_utilities\_aix-ppc64.zip  
AIX インストール用のアップデートが含まれます。
- informatica\_10561\_cmd\_utilities\_linux-x64.zip  
Redhat Enterprise Linux、Ubuntu、SUSE 12、SUSE 15、および Amazon Linux 2 インストールのアップデートが含まれます。
- informatica\_10561\_cmd\_utilities\_winem-64t.zip  
Windows インストール用のアップデートが含まれます。

## Input.properties ファイルの更新

input.properties ファイルには、Informatica のインストール先を指定するプロパティと、サービスパックインストーラの実行時に行うアクションを定義するプロパティが含まれています。サービスパックのインストールまたはロールバックの前に、これらのプロパティを更新します。ダウンロードしたそれぞれのサービスパックのファイルを更新します。

1. サービスパックファイルを展開します。
2. サービスパック内の input.properties ファイルを見つけます。
3. ファイルの *DEST\_DIR* プロパティを、Informatica ルートディレクトリのパスで更新します。
  - Linux マシンでは、パスを次の形式で設定します。  
`DEST_DIR=/home/infauser/<version number>`

- Windows マシンでは、パスを次の形式で設定します。

DEST\_DIR=C:\\\\Informatica\\<version number>

4. すべての製品コンポーネントや単体のコンポーネントのサービスパックを適用またはロールバックできます。input.properties ファイルには、各製品コンポーネントの識別子が含まれています。すべてのコンポーネントのサービスパックをインストールするには、各識別子をデフォルト値の **0** に維持します。

サービスパック内の特定のコンポーネントをインストールまたはロールバックするには、次の操作を行います。

- 適用するコンポーネントに関連付けられているコメントタグ（#）を削除します。
- Data Engineering 製品、PowerCenter または Informatica Data Quality の場合は、BDM\_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Catalog の場合、EDC\_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Preparation の場合、EDP\_ONLY を 1 に設定します。
- Data Privacy Management の場合、DPM\_ONLY を 1 に設定します。

複数の製品がインストールされている場合は、次の順序で個々のコンポーネントを適用します。

1. Data Engineering 製品、PowerCenter、または Informatica Data Quality
2. Enterprise Data Catalog
3. Enterprise Data Preparation
4. Data Privacy Management

サービスパックを適用した後に、インストーラを使用してサービスパックを自動的にロールバックすることはできません。[サービスパックを特定のコンポーネントにロールバックする] セクションに記載されている手順を実行して、サービスパックをロールバックする必要があります。

5. ファイルを保存し、閉じます。

## サービスパックのインストール

インストーラファイルを実行して、サービスパックをインストールします。

1. すべての Informatica アプリケーションを閉じ、すべての Informatica サービスを停止します。
2. サービスパックファイル内でインストーラファイルを見つけて、そのファイルを展開します。
  - Linux または AIX システムの場合、サービスのインストーラファイルは install.sh です。
  - Windows システムの場合、クライアントまたはサービスのインストーラファイルは install.bat です。
3. インストーラを実行します。

# サービスパックのロールバック

すべてのコンポーネントまたは特定のコンポーネントに適用したサービスパックをロールバックすることができます。

1. `input.properties` ファイルで、ROLLBACK プロパティの値を設定します。サービスパックをロールバックするには、この値を **1** に設定します。

サービスパックをインストールまたはロールバックするときに、インストーラはデフォルトではすべてのコンポーネントを適用します。

サービスパック内の特定のコンポーネントをインストールまたはロールバックするには、次の手順を実行します。

- 適用するコンポーネントに関連付けられているコメントタグ（#）を削除します。
- Data Engineering 製品、PowerCenter または Informatica Data Quality の場合は、BDM\_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Catalog の場合、EDC\_ONLY を 1 に設定します。
- Enterprise Data Preparation の場合、EDP\_ONLY を 1 に設定します。
- Data Privacy Management の場合、DPM\_ONLY を 1 に設定します。

複数の製品がインストールされている場合は、次の順序で個々のコンポーネントをロールバックします。

1. Data Privacy Management
2. Enterprise Data Preparation
3. Enterprise Data Catalog
4. Data Engineering 製品、PowerCenter、または Informatica Data Quality

2. ファイルを保存し、閉じます。

サービスパックを Enterprise Data Catalog バージョン 10.5.6 に適用した後に `sudoers` ファイルを変更した場合は、Informatica クラスタサービスを有効にする前に `tee` コマンドと `sed` コマンドの `sudo` 権限を指定したことを確認してください。

Data Privacy Management を使用する場合、Informatica Administrator にログインし、Data Privacy Management サービスデータベースプロパティを、バックアップの場所を指すように更新します。Data Privacy Management サービスを有効化します。

## 10.5.6.1 で修正された問題

この節では、10.5.6.1 で修正された問題と拡張要求を示します。

### Data Engineering Integration 修正された問題（10.5.6.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
PLAT-31047	genReuseReportFromPC コマンドが失敗し、次のエラーが表示される: Command [genReuseReportFromPC] failed with error [1].
BDM-42124	Developer ツール内のエフェメラル Databricks ジョブクラスター用に設計されたワークフローで、クラスタ作成タスクを使用して Databricks バージョン 10.4 および 11.3 を作成できない。

## Data Engineering Quality 修正された問題 (10.5.6.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
OCON-31217	Data Quality にアップグレードした後、REST Web サービスコンシューマトランスフォーメーションが失敗する。

## Data Privacy Management 修正された問題 (10.5.6.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
SATS-42679	Data Privacy Management のプライマリノードの変更と復元に失敗する。
SATS-42654	Data Privacy Management で複数のリンクを処理すると、IMPORT_CATALOG_LINEAGE ジョブがメモリ不足エラーで失敗する。
SATS-42646	サブジェクトレジストリエージェント (SRAgent) にサードパーティライブラリ (TPL) がないため、テナント資格情報を使用した Microsoft OneDrive および Microsoft SharePoint データストアまたはデータソースのテスト接続とスキャンが失敗する。

## Enterprise Data Catalog の修正された問題 (10.5.6.1)

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
EIC-67810	プロファイリングが有効になっている SAP リソースで Enterprise Data Catalog スキャナジョブを実行すると、ジョブの実行時間が予想完了時間を超える。
EIC-67781	ログイン名がマルチバイトの場合、Catalog Administrator UI からデフォルトの権限を設定できない。
EIC-67760	カタログで誤ったメタデータが作成されるため、S3 スキャナパーティションの検出に失敗する。
EIC-67736	カタログユーザーインタフェースの URL を開くと、アセットのオブジェクト ID に 3 つの連続したアンダースコアが含まれていると、権限が不十分であるというエラーが発生する。
EIC-67695	Enterprise Data Catalog 詳細スキャナを使用して Oracle リソースをスキャンすると、Enterprise Data Catalog UI に完全なソースコードが表示されない。
EIC-67683	Informatica Platform と SAP HANA リソース間のリネージュの確立に失敗する。
EIC-67674	MITI ドライバが ROW CHANGE TIMESTAMP 構文を解析できない場合、リネージュを PowerCenter マッピングで使用できないことがある。
EIC-67601	リソースの作成中に認証キーを暗号化できない。
EIC-67588	テーブル名に引用符 (') が含まれている場合、Catalog UI でカラムのプロファイリング結果を表示できない。
EIC-67563	BDM スキャナは、マッピングに対して重複する参照データセットを抽出する。重複する参照データセットはオブジェクト ID が正しくなく、データ要素やリネージュが含まれていない。
EIC-67552	NGINX をプロキシとして使用し、応答ヘッダーに重複する transfer-encoding が表示される場合、Enterprise Data Catalog は NGINX 502 Bad Gateway エラーでリソースエクスポートのダウンロードに失敗する。
EIC-67440	Amazon S3 V2 リソースのメタデータ抽出で、マルチレベル階層 XML ファイルのカラム情報が誤って表示される。
EIC-67416	データドメインプロパゲーションリソースが PostgreSQL データベースのクエリに失敗し、応答しない状態になる。
EIC-67409	ONE TO MANY JOIN 構文が含まれる SAP HANA データベースビューをスキャンすると、スキャンジョブが警告メッセージをトリガし、ビューのリネージュを想定どおりに作成しない。
EIC-67392	Amazon S3 V2 リソースは、Standard 以外のストレージクラスのファイルを抽出できない。
EIC-67387	Teradata リソースが含まれる Teradata テーブルをスキャンすると、ソースデータ型の精度がテーブルの DDL と一致しない。
EIC-67382	短時間に複数の searchExport ジョブを実行すると、カタログサービスプロセスが次のエラーで失敗する: Too many open files in system。



問題	説明
EIC-67357	Enterprise Data Catalog でマッピングをスキャンすると、1 つ以上のマッピングに対して次のエラーが表示され、リネージュ図にソースファイルが表示されない: 'syntax error, unexpected '(', expecting COLUMNS_TOKEN'
EIC-67331	データ検出ジョブでリソースの実行を一時停止し、ジョブを再開すると、リソースはプロファイリング結果の取得に失敗する。
EIC-67297	array キーワードを含む JSON キーは、空のプロファイリング結果とデータドメインを示す。
EIC-67267	接続の再初期化中に認証に失敗したため、ファイルシステムリソースが失敗する。
EIC-67266	Enterprise Data Catalog (EDC) では、プロファイリングジョブがテーブルをスキップしようとしたときに ArrayIndexOutOfBoundsException エラーで失敗することが原因で、データ検出ジョブが失敗する。
EIC-67150	Qlik Sense リソース内の異なるプロジェクトに同じ名前のテーブルがある場合、Enterprise Data Catalog が不適切なリネージュを抽出する。
EIC-66921	リネージュが参照アセットでのみ表示される。接続の割り当てが完了すると、ソースオブションとターゲットオブションのオブジェクトが欠落するが、参照アセットは管理中のアセットで引き続き使用できる。
EIC-66841	Amazon S3 と Azure Data Lake Storage Gen2 は、プロファイリングのために Hive 形式の Avro パーティションフォルダと Parquet パーティションフォルダに非構造化ファイルを送信できない。
EIC-66800	Enterprise Data Catalog UI から Axon 用語集の分類を関連付けるのにかかる時間が想定以上に長くなる。
EIC-66719	カスタム属性値にスペースが含まれている場合、[リネージュと影響] ページで属性フィルタリングに失敗する。
EIC-66496	Enterprise Data Catalog で、読み取りアクセス権を持たないユーザーが複数のリソースを含む完全なリネージュを表示できる。
DAA-2723	ユーザーグループ名に\$が含まれている場合に、Catalog のダッシュボードにアクセスしようとすると、Catalog UI の [アクティブユーザーの増加] ダッシュボードと [ユーザー検索] ダッシュボードに次のエラーが表示される: Error in displaying data.

## 実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
EIC-67392	Amazon S3 V2 リソースは、STANDARD 以外のすべてのストレージクラスのファイルを抽出する。



## Informatica Analyst の修正された問題（10.5.6.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
IDE-5813	カラム精度が 32000 のフラットファイルオブジェクトでプロファイルを実行すると、Analyst ツールで <code>java.util.concurrent.ExecutionException</code> エラーが発生して失敗する。

## オンプレミス接続の修正された問題（10.5.6.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
OCON-31233	Developer ツールまたは Analyst ツールで JDBC コネクタを使用して Databricks Delta テーブルにアクセスすると、Databricks 用の JDBC ドライバが ConnCatalog パラメータを認識できない。
OCON-31216	Azure sqlDW と JDBC の接続マッピングを同時にトリガすると、デッドロックが発生し、マッピングが無期限にハングする。
OCON-31171	10.5.5 では、プロファイリングが有効になっている SAP リソースに対する Enterprise Data Catalog スキャナジョブがタイムアウトエラーで失敗する。
OCON-31168	ODBC 接続を使用して Greenplum ソースからデータを読み取ると、マッピングが予期せずシャットダウンする。
OCON-31097	Advanced Interactive eXecutive (AIX) 7.3 TL2 で Azure Data Lake Storage Gen 2 マッピングが Java 例外エラーで失敗する。

## PowerCenter の修正された問題（10.5.6.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
CORE-10866	Web サービスコンシューマが Oracle Primavera 環境で正常に実行されない。
CORE-10858	http トランスフォーメーションを使用する PowerCenter マッピングが、複数の content-type ヘッダーを誤って送信するため、リモート API 呼び出しが失敗する。

問題	説明
CORE-10836	PowerCenter リポジトリサービスで再利用できないセッションを削除すると、次のエラーが発生する: FnName: Execute Direct - [Informatica][ODBC SQL Server Wire Protocol driver][Microsoft SQL Server]Incorrect syntax near 'D'.
CORE-10833	ワークフローをインポートすると、セグメンテーション違反が発生することがある。
CORE-10832	ソースにカラムとグループが追加された新しいマッピングをインポートすると、AMGDSQ はグループ情報の更新に失敗する。

## プロファイリングおよびスコアカードの修正された問題（10.5.6.1）

### 修正された問題

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
BDM-42049	メールアドレスのドメイン名が3文字を超えている場合、Analyst ツールから電子メールサービスを通じてスコアカード結果通知を送信すると、無効な電子メールアドレスエラーが表示される。
EIC-67691	リソースに対して類似性検出を複数回実行すると、類似カラムリストに重複が0%の信頼度で表示される。

### 実装された拡張要求

以下の表に実装された拡張要求を示します。

問題	説明
ANT-2805	プロファイルを削除すると、対応する孤立プロファイルの結果がプロファイルウェアハウスで消去される。

## Test Data Management 修正された問題（10.5.6.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
TDM-30372	ソーステーブルのカラム名に特殊文字が含まれる場合、Test Data Management は無効なマッピングを生成する。
TDM-30360	Test Data Management のユーザーインターフェースでワークフローを作成した後、PowerCenter Designer の [入力ポート] フィールド値が空になり、ワークフローが失敗する。
TDM-30335	新しいホストに移行した後、コマンドタスクの実行に失敗する。

### サードパーティの修正（10.5.6.1）

以前の修正済みの問題については、以前のリリースのリリースノートを参照してください。

以下の表に、修正済みの問題を示します。

問題	説明
BDM-42126	データ統合サービスグリッドのワーカーノード上のいくつかのアプリケーションの起動に失敗する。

## 10.5.6.1 の既知の問題

この節では、10.5.6.1 で見つかった既知の問題を示します。

### Enterprise Data Catalog の既知の問題（10.5.6.1）

以下の表に 10.5.6.1 で見つかった既知の問題を示します。

問題	説明
EIC-67951	Enterprise Data Catalog のリネージュドリルダウンダイアログ検索で、一貫性のないデータが表示される。
EIC-67867	カタログサービスで検索エクスポートジョブの完了後、ファイル記述子とスレッド数が元の値に戻らない。
EIC-67668	XML ファイルサイズが 6GB を超える Amazon S3 スキャナジョブがメモリ不足エラーで失敗する。

## サードパーティ 製品に関する既知の制限事項(10.5.6.1)

以下の表に、サードパーティの既知の問題を示します。

バグ	説明
BDM-42190	Hadoop ディストリビューションパッケージに古いバージョンの log4j-1.2.17.jar が含まれている。
BDM-42185	グループ条件とデフォルト条件を使用して Router トランスフォーメーションを実行すると、デフォルト条件では、ターゲットフラットファイルリソースへの書き込みに失敗する。
BDM-42184	Hive ソースで符号なしの日付値または時間値を使用してマッピングを作成し、Spark モードで実行すると、Hive ターゲットで日付と時間の値が切り詰められて表示される。
BDM-42149	AWS Hive マッピングを Spark モードで実行すると、Cloudera プラットフォーム 7.2.18 でマッピングが失敗する。

## 累積的な既知の制限事項

このセクションには、前のリリースから引き継がれた既知の制限事項が含まれています。

### Data Engineering Integration の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
PLAT-30505	Administrator ツールログのエラーコードをクリックすると、関連記事の代わりに Informatica ナレッジベースのホームページが表示される。
PLAT-30498	Administrator ツールから Informatica ナレッジベースを検索すると、500 内部サーバーエラーが表示される。
BDM-41987	MapR Hadoop ディストリビューションの Avro、Parquet、ORC などの複合ファイル形式をインポートできない。
BDM-39707	アップデートストラテジを使用して Kudu マッピングを実行すると、トランスフォーメーションの検証が失敗する。

## Data Engineering Streaming の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の問題を示します。

問題	説明
IIS-5842	Kafka XML データオブジェクトが、「ダッシュ」の付いたフィールドを持つ複合 XML スキーマを検出すると、Hive テーブルへのデータのロードに失敗する。
IIS-5774	Confluent Kafka のスキーマ形式のパラメータとして Avro を追加すると、Avro スキーマが実行時に更新されない。
IIS-5702	JSON 配列形式のマッピングで、SchemaParseException エラーが表示される。
BDM-41513	一部の偽装ユーザーに対して、Spark エンジンで実行されるマッピングが Apache Ranger Raz 例外エラーで失敗する。

## Enterprise Data Catalog の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
EIC-67483	アセットサマリのリネージュと影響の分析を Microsoft Excel ファイルにエクスポートすると、顕著な遅延が発生する。
EIC-67474	リソースは、実行時にメタデータへのアクセスとパブリッシュに失敗することがある。
EIC-67442	ファイルサイズが 2 MB を超える場合、JSONL メタデータの抽出が OutOfMemoryError で失敗する。
EIC-67422	Tika 2.9.2 のアップグレード後、システムは、特定の Word、Excel、または PowerPoint 拡張子を持つ圧縮ファイルをプロファイリングから誤って除外する。
EIC-67166	Amazon S3 または Azure Data Lake Storage Generation 2 (V2) リソースで XML ファイルを抽出すると、要素は正しいデータ型ではなく文字列として表示される。
EIC-67048	パーティション刈り込みオプションを無効にすると、非 Hive 形式のパーティションの Parquet プロファイルに失敗する。
EIC-66428	エンリッチメント移行ユーティリティで、同じ名前と同じ親を持つオブジェクトのエンリッチメントを移行できない。 回避策: これらのオブジェクトのエンリッチメントを手動でインポートします。

問題	説明
EIC-66378	テーブルカラムがシノニムカラムに関連付けられている場合、データドメインのキューレーションによって予期しない動作が引き起こされる。
EIC-60369	Enterprise Data Catalog のアドオンアプリケーションを Internet Explorer で開くことができない。
EIC-57719	Docker コンテナイメージを使用して Informatica ドメインを起動し、Enterprise Data Catalog Docker イメージを実行すると、アップグレードが失敗する。
DFA-597	データフロー分析リソース名に日本語の文字が含まれている場合、レポートのダウンロードジョブに「ロード中」ステータスが表示されたままになる。
ANT-2187	Administrator ツールで「デフォルトのスキーマを表示」オプションを選択すると、Azure SQL データベースのインポートに失敗する。

## オンプレミス接続の既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
OCON-30444	PowerExchange for Amazon Simple Storage Service バージョン 2 (S3 V2) を使用して、複数のパーティションを持つターゲットにデータをロードすると、大幅な遅延が発生する。
OCON-29823	Scala 2.12 を搭載した Spark 3.x で実行される Azure Cosmos マッピングが、Scala バージョンの不一致エラーで失敗することがある。 回避策: azure-cosmos-spark_3-2_2-12-4.6.0-uber など、Azure Cosmos Scala コードバージョン 2.12 を更新します。
OCON-27531	WebSphere MQ ソースとフラットファイルターゲットを使用したメッセージリカバリ用のセッションを構成した場合、PowerCenter 統合サービスは失敗したセッションから未処理のメッセージをリカバリできないことがある。
OCON-27432	アップデートストラテジトランスフォーメーションを使用して完全なプッシュダウンの最適化のために PowerCenter 統合サービスを設定し、2 つのテーブルを結合すると、Google BigQuery セッションが失敗する。

## インストーラの既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
PLAT-30993	プロファイリングウェアハウス接続を作成するときに、GUI、コンソール、およびサイレントモードのインストーラでは PostgreSQL がデータベースタイプとしてリストされない。

## サードパーティ製品に関する既知の制限事項（累積）

以下の表に以前のリリースから引き継がれている既知の制限事項を示します。

問題	説明
OCN-30416	最新の SAP NW RFC SDK 7.5 ライブラリパッチ 11 を使用した単一のセッションで複数の BAPI を使用することはできない。
BDM-41746	詳細プロパティで Spark 動的割り当てを有効にすると、Spark エンジンで実行されるマッピングが失敗する。
IIS-5963	Spark 3.3.2 と統合された CDP 7.1.9 では、アグリゲータトランスフォーメーション、ランクトランスフォーメーション、またはソートトランスフォーメーションを含むストリーミングマッピングで例外エラーが発生する場合があります。これは、Data Engineering Streaming 10.5.6 では CDP 7.1.9 をサポートしていないためです。 Cloudera チケット番号: 1044556
EIC-67237	Red Hat Enterprise Linux 9 証明書と MongoDB の依存関係。MongoDB チケット参照: <a href="https://support.mongodb.com/case/01297819">https://support.mongodb.com/case/01297819</a>

## Informatica グローバルカスタマサポート

グローバルカスタマサポートにお問い合わせいただく場合は、電話または Informatica Network からご連絡ください。

それぞれの地域の Informatica グローバルカスタマサポートの電話番号については、Informatica Web サイト

(<https://www.informatica.com/services-and-training/customer-success-services/contact-us.html>) を参照してください。

Informatica Network のオンラインサポートリソースについては、<https://network.informatica.com> の eSupport オプションをご確認ください。